

調査の現状について

- 日本語教員の養成については、日本語学習者の増加やその多様な学習需要等を踏まえ、各種の指針等が示されてきた。
- 平成12年3月30日には、日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議から「日本語教育のための教員養成について」が報告され、画一的な「標準的な教育内容」ではなく、「基礎から応用に至る選択可能な教育内容」として、「日本語教員養成において必要とされる教育内容」が示された。
- これは、各養成機関においてどのような教育課程を編成するかは、そこに示された教育内容を参考としてそれぞれの日本語教員養成機関の自主的な判断に委ねようとするものであった。
- しかし、実際に大学等において、どのようなカリキュラムで日本語教員が養成されているかについては、実態は十分に把握されていない。
- そのため、大学等における日本語教員の養成を含む日本語指導者の養成・研修について現状に関する調査を行い、課題の整理等を行うこととした。

調査について

【調査の種類】

- ①日本語教員等の養成・研修に関するカリキュラム・シラバスの収集
- ②日本語教育機関等における日本語教員等についての実態調査
- ③日本語教育機関等における日本語教員等に対するニーズ調査
- ④日本語教員等の養成・研修に関する個別調査(機関)
- ⑤日本語教員等の養成・研修に関する個別調査(教員)



【結果の整理】

- 教員養成課程の実態
(カリキュラム編成・教育内容等)
- 日本語教員の現状
(勤務形態, 年齢, 最終学歴, 専門分野, 経験年数, 教育能力検定試験の可否等)
- 教育現場が日本語教員に求めるもの
(教員の役割, 資質, 社会経験, 語学力等)
- 日本語教員から見た研修についてのニーズ(受講したことのある研修内容, 今後必要だと思う研修内容等)
- 教員研修の実態
(新規採用者・現職教員に対する研修の内容等)
- 教員採用・退職の動向
(採用人数, 退職人数, 退職理由等)



分析・取りまとめの方向性の概要(案)

【分析の観点・方法】

- (1)カリキュラム・シラバスの現状
- (2)カリキュラム・シラバスの現状と教育現場のニーズとの比較
- (3)カリキュラム・シラバスの現状と教員のキャリア段階別ニーズとの比較

【取りまとめの方向性】

調査の結果について、上記のとおり分析を行い、日本語教員等の養成・研修に関して、次の構成により記述する。

- (1)日本語教育機関における日本語教員の現状
- (2)日本語教員養成の現状と注目すべき事例
- (3)日本語教員養成の課題と対応策